

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディア・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 1ユニット		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100043-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然に恵まれた場所でございます。自然豊かな環境の中でご利用者様は生活されているためストレスをあまり感じることなく伸び伸びと生活されています。ご利用者様は四季の景色を楽しみながら外気浴や一周800メートルほどの散歩コースを皆様のペースで散歩されています。明るいホームでカラオケやミッケルアートなどレクリエーションも豊富にございます。また最近ではスタッフと一緒にデコパージュやリース作り、きめこみパッチワークなどの作品作りも行っています。裏の畑では、ご利用者様が中心となり野菜を育てています。畑で採れた野菜で旬の料理を召し上がり皆様お元気に過ごされています。今後ご利用者様との関わりを通じて認知症ケアに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の春祭りには食の祭典かのように、富士宮炊きそば、フランクフルト、つくね、おにぎり、唐揚げ、チョコバナナ、綿菓子と美味しいものが沢山並び、家族や地域の人たちが200名余も集い、フィナーレを餅つきで飾っています。地域との関係は大きく実らせているものの、冬季には道路も凍るとあって職員の定着は悩みの種です。それだけに職員間のコミュニケーションを重視すると共に、『就寝時間などこれまでの暮らしを続けること』『発語があれば、必ず受容と同調で傾聴する』という2点を守り、利用者の安寧を支えています。また新採者がいてもサービスが標準化できるような工夫も施され、利用者の笑顔に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の申し送り時に運営理念を唱和しています。また各ユニット毎に目標を立て、理念に基づいたサービスが行えるように努めています。	法人の運営理念は申し送りで唱和することを慣行し、何かあればユニット会議で話し合い、意識継続に努めています。ユニットごとに目標を策定し、例えば3階では『介護技術の向上』としていて、現在「かむこと、飲み込むこと」に注視して検討を重ねているケースがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加させて頂いたり、ホームのイベントにも来て頂いたりしています。また近所の方の畑の野菜を頂くこともあり交流を持つことができます。	具合がわるく散歩の回数が減った利用者がいたときには、「あの人最近みないね」と散歩で行き交う人が声をかけてくださったり、農作業の手をとめ「そらまめ持ってく？」との声もかかります。また事業所の春祭り、どんど焼きでは近隣住民と食を通して賑わいの時間を過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方たちとの関りづくりができています。ため、散歩などご利用者様がお一人で出かけても声をかけて下さり見守ってくださっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動内容などを報告しています。ご利用者様の様子を報告するお便りなどのアドバイスを頂き実践したり、要望なども聞き入れていけるように努めています。	家族が中心となる運営推進会議を隔月開催できています。事業所としては忌憚ない家族意見が収集できることがありがたく、一方家族は毎回皆出席くださる市役所職員から貴重な知識を得ることもでき、盛り上がり止まない回もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所の方に来ていただき、ホームの活動内容などを共有しています。また市内の感染症や災害時の情報なども伺ったりしています。	大型台風など予見されるリスクには「水漏れはないか」といった確認や助言が市役所から入っていて、事業所運営に心強い存在となっています。事業所もできる限り関わるように努めており、来月にも介護保険の更新についての市主催研修会に参加の予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っていきます。	法令に則り『身体拘束廃止委員会』を設置し、すでに年4回の開催を終えています。一所懸命関わろうとする余力がきつめになる職員をフロア全体でフォローしたり、これまではチェックシート等のツールに留まっていた取組みが、現在は事例検討までに及ぶ等、前進がみられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内のスタッフ研修で行っているが活用に活かせるまでにはなっていない為、学ぶ機会を増やしていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を見ながら説明を行い、理解を得ていただける様努めています。また改定時にはご家族様へご説明し同意を頂き同意書での文書での保管も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時にお話を伺っています。また面会に来られた際にご利用者様の近況をお伝えし、要望等の確認を行っています。	居室担当が配され密な関係性をもって利用者の安心感を醸成するとともに、ユニット会議で情報共有も叶っています。請求書とともに毎月さおり通信を家族に届け、面会では期待に応えるべく、平日は介護支援専門員、休日は管理者の出勤がある、といった配慮もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や全体会議で意見交換する機会を作っています。また業務中にもスタッフとコミュニケーションを取るように努めています。	普段から管理者が現場にも入り、何か気づけば「大丈夫？」と声をかけ、職員とコミュニケーションをとっています。3ユニットのリーダーと介護支援専門員、管理者5名という強固な体制の下、職員意見の収集が漏れなくおこなわれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが外食や外出などの計画を立てたり、支援方法などを考えたりした意見を出来る限り汲み取り、働き甲斐のある職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議では介護の現場に必要な研修を行い、技術向上に努めています。また外部の研修に参加する機会も作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会での研修を通じて他施設との交流を持つ機会を持ち、様々な体験、経験などの学びを持つことで、職場に活かされるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様との信頼関係を大切に支援を行っています。ご利用者様の不安な事、要望などはスタッフ間で共有し支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム長やケアマネージャーが十分に話し合い、信頼関係を築く事が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の場でのご利用者様のコミュニケーションや行動等で必要な支援を見極め、会議の際、スタッフ間で情報を共有し介護計画を立てる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の発言や要望を逃さず積極的に行って頂いています。またご利用者様から教えて頂く事も多く、信頼関係を築きながら支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご利用者様の様子をお手紙でお知らせしたり、日々のチェック表をご家族様にお送りする事で、ホームの情報を適宜お伝えしながら、不安を解消して頂けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られ、入居されても交流が狭まらないように努めています。入居前に利用していた美容院に通う方もいらっしゃいます。	スリッパが足りなくて、リネン庫から出さなくてはならないほどファミリーが集うこともあるほど、以前からのご縁ある皆さんが集まってくださいます。散歩の途中で野蒜や土筆を採って調理レクを愉しんだり、趣味の絵画や木目込み、デコパージュなどを続けている利用者も多くいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の状況を見極め、スタッフが間に入りながらレクリエーションやお話をする環境を提供しています。お一人で過ごされる時間も大切にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長やケアマネージャーが窓口となり、退居後も必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の支援の中でご利用者様の要望や想いを把握し生活の支援に活かせる様努めています。	『就寝時間などこれまでの暮らしを続けること』 『発語があれば、必ず受容と同調で傾聴する』という2点を守り、利用者の安寧を支えています。また新採者がいてもサービスが標準化できるよう、写真とアセスメント情報がはいった席表も備えています。	絵画や木目込みの作品は見ごたえがあります。地域の信金や郵便局など展示してもらえたら、なお素晴らしいと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子をアセスメントなどで把握しています。また、ご家族様にご本人様の家族構成や生活歴などの記載を協力頂き、ご本人様の生活の支援に努めています。また、入居後も会話の中からも暮らしの把握ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子をしっかりと把握し、その時に必要な支援が出来るようにスタッフ間で情報共有を行っています。ご利用者様が安心して生活していただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の様子をよく観察しより良い生活を送って頂ける様、会議等で様々なアイディアを出し合います。またご家族様の意見も参考にさせていただき、その人だけの介護計画を立てています。	毎月のユニット会議の中でおこなうカンファレンスは、「利用者のことを話し合う場」として全職員が大切に思っていて、休暇の職員も集まっての話し合いとなっています。介護計画書を反映させた『サービス内容実施記録』に実践を残すことで、職員は日々振り返ることもできています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、サービス記録、送りノートなどを活用し、気づきに対して直ぐに支援できるようチーム力の向上に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して適切に対応出来るようにアイディアを出し合い、サービス提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得ながら、地域の行事に参加させて頂いています。また台風や地震などの災害時にも地域の方から声を掛けて頂き、地域の方に見守られながら安心して過ごして頂ける環境を提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続されている方もおられます。健康チェック表のコピーを御家族様にお預けし受診して頂きますが、必要時には職員が同行させて頂いています。また月2回協力医が職場に往診に来られ適切な医療が行なえるようにしています。	「24時間オンコール」と謳ってもいほど親身に関わってくださる協力医で、職員は安心感を覚えています。月2回の訪問診療を24人が受け、他3人は家族の通院介助で在宅の頃からの医師を続けています。家族には情報を持参してもらい、医療情報は個人ファイルで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りに参加し様子の変化に対応しています。必要時には医療機関と連絡を取り早期に適切な受診が受けられるようにしています。また各ユニット会議にも参加し、医療的な立場からの助言等もいただき支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や医療機関と情報を共有しながら入院を長期化させないように努めています。また2から3日おきにご利用者様の様子を見にいき、職員と共有し退院時に適切な支援が行える様準備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での看取りも増えてきています。ご利用者様の変化に合わせてご家族様、医療機関、スタッフと密に話し合い、今後の方針を決め支援しています。	重度化に係る指針等も含め、契約時に看取りについても家族に説明して、合意形成できています。協力医の応援も得て此処2年で3名のお見送りをするに至り、まだ職員は積極的とは言えないものの、管理者の「何かあればすぐ駆けつけるから」の言葉を励みに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で研修を行っています。緊急時の連絡体制や、AEDなどの使用の仕方、応急処置など確認を行い、発生時には素早く対応出来る様に努めていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の防災研修や防災訓練などを行っています。消火器の場所、避難場所、備蓄品などしっかりと確認し対応出来るようにしていきます。	年2回の法定訓練の内1回は消防署の立ち合いを求めており、車いすを利用する人を階下に降ろす場合の最善方法等の指導を受け、避難・通報・水消火器といった訓練を実施しています。たこ足コンセントを使用する居室には遅番が漏電チェックするなどのリスク管理も確かです。	隣近所がまばらということもあり、「こういった場合はどうする？」などのQ&Aづくりや、机上訓練があると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活歴、行動、性格などを把握しその方に合った適切な声掛けをするように心がけています。	年4回おこなう不適切ケアチェックシートを通して、『居室ドアはノックをしてから』『呼称は「～ちゃん」づけはしない』と、細目に振り返る時間があります。教師だった人は「先生と呼んで欲しい」と本人が望むので、他の利用者の気持ちにも気遣いながら希望に副っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との信頼関係を築き、いつでも話しかけやすい環境を作れるように努めています。その中にご利用者様からやりたい事や希望を伺いながら自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活状況を把握しそれぞれの希望に沿った一日を送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居後も変わらずおしゃれを楽しめるよう支援しています。ご家族様やご本人様から伺いお化粧品や衣類などをご家族様から持ってきていただいたり、一緒に買いに出かけたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフがおり毎食の食事はスタッフが作っているが、定期的に外食に出かけている。また畑で育てた野菜を使い、ご利用者様と一品一緒に作ったり、行事に合わせた食事を一緒に作ったりし、楽しめる工夫をしています。	介護職員とは別に外部からの調理人がおり、毎食バラエティに富んでいます。いなり寿司やおはぎを利用者と一緒に作る調理レクをはじめ、盛り付けや下膳、洗い物を手伝ってもらうときもあります。たこ焼き器をつかった鈴カステラや炊飯器ケーキなど、楽しいおやつレクもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、毎日の摂取量が分かるようにしています。目標の一日分の摂取量をしっかり確保できるように提供時間等を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方にあった方法で口腔ケアを行っています。また協力歯科医の往診も適宜行い、口腔内のチェックをして頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレ誘導や声掛けを行っています。自立に向けての支援を行っています。	パットは試供品などを吟味して、現在は2種類に限定しています。便秘の悩みにはできるだけ下剤に頼らず、滞っている人はトイレで長めに座ってもらったりといったことにも配慮し、繊維のある食材を増やしたり、カスピ海ヨーグルトを提供しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分量に気を付けています。ヨーグルト、バナナ、繊維がある物など、薬に頼るのではなく、便秘改善に良いものは積極的に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴をして頂いていますが、希望があれば毎日入浴することもあります。拒否のある方も機嫌の良いタイミングを見て楽しく入浴して頂くように努めています。	1日おきの入浴を目安としていますが、利用者の状態や希望には柔軟に対応しています。寒さの強い地域のため、冬季には湯気が一杯になるようお湯を流しっぱなしとして、ヒートショックのないように脱衣コーナーにはヒータも置いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた時間で休んで頂いています。眠れない方はホールでスタッフと安心して休めるまでお話をされることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や服薬時間を確認し、往診などで薬の変更や追加となった場合には随時スタッフ間で情報共有して経過を観察するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描かれたり、パッチワークをされたりご利用者に毎に合った趣味、役割などを提供しています。達成感を喜びに感じて頂ける様支援しています。またハーモニカを吹いて他のご利用者様と楽しめる方もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様と買い物に出かけたり、外出に出かけたりします。近くに店舗がないため、車で移動は車窓から景色を楽しむこともできます。毎日ホーム周辺を散歩することも日課になっています。	近隣住民に顔を覚えてもらえるほど散歩は暮らしの中に溶け込み、月1、2回は小グループでのミニドライブでちょっとした遠足気分を味わったり、買い物や外食を愉しんでいます。職員と2人でスーパー銭湯に出かけ、風呂上りの一杯を愉しんだ人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご利用者様に持って頂いていませんが、ご利用者様と一緒に外食や買い物に行く際に必要に応じてお小遣いを使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望があれば、手紙や電話をすることは可能です。またホームに届いたお手紙の返信等も対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や、その時々にあった環境づくりをしています。季節の行事や、外出先で撮った写真や作品などを飾り付けています。感染症対策もしっかり行っています。	毎朝利用者と掃除をする共用空間は清潔が保たれており(夕方は職員のみ)、壁には外出や行事での写真を大きく伸ばして掲示し、利用者作品も華やかです。大きな窓に絵画のように戸外の景色が映るものの、夜間には不穏を誘う恐れもあるため、ついたてが用意されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う方同士の配置をしています。ソファや居室内の空間を工夫して、色々な場所で安心できる環境を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、家具の配置をご家族様やご利用者様と確認し居心地よく過ごせるよう努めています。基本的にはご利用者様に危険がなければ何を持ってきていただいても良いとお伝えしています。	間取りが広く、窓も大きなコテージ風の造りには自宅からリビングセットのような大きなものが持ち込まれた居室もありますが、認知症が進むにつれて少しずつ減らしたり、1ヶ所に集めたりと片付けていったことが判るような部屋も年々増えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して生活して頂けるための安全確保に努めています。また物の配置には気を付けて常に検討しながらその時々にあった環境づくりをしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディア・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 2ユニット		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100043-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然に恵まれた場所でございます。自然豊かな環境の中でご利用者様は生活されているためストレスをあまり感じることなく伸び伸びと生活されています。ご利用者様は四季の景色を楽しみながら外気浴や一周800メートルほどの散歩コースを皆様のペースで散歩されています。明るいホームでカラオケやミッケルアートなどレクリエーションも豊富にございます。また最近ではスタッフと一緒にデコパージュやリース作り、きめこみパッチワークなどの作品作りも行っています。裏の畑では、ご利用者様が中心となり野菜を育てています。畑で採れた野菜で旬の料理を召し上がり皆様お元気に過ごされています。今後ご利用者様との関わりを通じて認知症ケアに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の春祭りには食の祭典かのように、富士宮炊きそば、フランクフルト、つくね、おにぎり、唐揚げ、チョコバナナ、綿菓子と美味しいものが沢山並び、家族や地域の人たちが200名余も集い、フィナーレを餅つきで飾っています。地域との関係は大きく実らせているものの、冬季には道路も凍るとあって職員の定着は悩みの種です。それだけに職員間のコミュニケーションを重視すると共に、『就寝時間などこれまでの暮らしを続けること』『発語があれば、必ず受容と同調で傾聴する』という2点を守り、利用者の安寧を支えています。また新採者がいてもサービスが標準化できるような工夫も施され、利用者の笑顔に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の申し送り時に運営理念を唱和しています。また各ユニット毎に目標を立て、理念に基づいたサービスが行えるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントに参加させて頂いたり、ホームのイベントにも来て頂いたりしています。また近所の方の畑の野菜を頂くこともあり交流を持つことができます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方たちとの関りづくりができています。ため、散歩などでご利用様がお一人で出かけても声をかけて下さり見守ってくださっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動内容などを報告しています。ご利用様の様子を報告するお便りなどのアドバイスを頂き実践したり、要望なども聞き入れていけるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所の方に来ていただき、ホームの活動内容などを共有しています。また市内の感染症や災害時の情報なども伺ったりしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内のスタッフ研修で行っているが活用に活かせるまでにはなっていない為、学ぶ機会を増やしていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を見ながら説明を行い、理解を得ていただける様努めています。また改定時にはご家族様へご説明し同意を頂き同意書での文書での保管も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時にお話を伺っています。また面会に来られた際にご利用者様の近況をお伝えし、要望等の確認を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や全体会議で意見交換する機会を作っています。また業務中にもスタッフとコミュニケーションを取るよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが外食や外出などの計画を立てたり、支援方法などを考えたりした意見を出来る限り汲み取り、働き甲斐のある職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議では介護の現場に必要な研修を行い、技術向上に努めています。また外部の研修に参加する機会も作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会での研修を通じて他施設との交流を持つ機会を持ち、様々な体験、経験などの学びを持つことで、職場に活かせるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様との信頼関係を大切に支援を行っています。ご利用者様の不安な事、要望などはスタッフ間で共有し支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム長やケアマネージャーが十分に話し合い、信頼関係を築く事が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の場でのご利用者様のコミュニケーションや行動等で必要な支援を見極め、会議の際、スタッフ間で情報を共有し介護計画を立てる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の発言や要望を逃さず積極的に行って頂いています。またご利用者様から教えて頂く事も多く、信頼関係を築きながら支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご利用者様の様子をお手紙でお知らせしたり、日々のチェック表をご家族様にお送りする事で、ホームの情報を適宜お伝えしながら、不安を解消して頂けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られ、入居されても交流が狭まらないように努めています。入居前に利用していた美容院に通う方もいらっしゃいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の状況を見極め、スタッフが間に入りながらレクリエーションやお話をする環境を提供しています。お一人で過ごされる時間も大切にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長やケアマネージャーが窓口となり、退居後も必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の支援の中でご利用者様の要望や想いを把握し生活の支援に活かせる様努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子をアセスメントなどで把握しています。また、ご家族様にご本人様の家族構成や生活歴などの記載を協力頂き、ご本人様の生活の支援に努めています。また、入居後も会話の中からも暮らしの把握ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子をしっかりと把握し、その時に必要な支援が出来るようにスタッフ間で情報共有を行っています。ご利用者様が安心して生活していただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の様子をよく観察しより良い生活を送って頂ける様、会議等で様々なアイディアを出し合います。またご家族様の意見も参考にさせていただき、その人だけの介護計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、サービス記録、送りノートなどを活用し、気づきに対して直ぐに支援できるようチーム力の向上に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して適切に対応出来るようにアイディアを出し合い、サービス提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得ながら、地域の行事に参加させて頂いています。また台風や地震などの災害時にも地域の方から声を掛けて頂き、地域の方に見守られながら安心して過ごして頂ける環境を提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続されている方もおられます。健康チェック表のコピーを御家族様にお預けし受診をして頂きますが、必要時には職員が同行させて頂いています。また月2回協力医が職場に往診に来られ適切な医療が行なえるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りに参加し様子の変化に対応しています。必要時には医療機関と連絡を取り早期に適切な受診が受けられるようにしています。また各ユニット会議にも参加し、医療的な立場からの助言等もいただき支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や医療機関と情報を共有しながら入院を長期化させないように努めています。また2から3日おきにご利用者様の様子を見にいき、職員と共有し退院時に適切な支援が行える様準備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での看取りも増えてきています。ご利用者様の変化に合わせてご家族様、医療機関、スタッフと密に話し合い、今後の方針を決め支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で研修を行っています。緊急時の連絡体制や、AEDなどの使用の仕方、応急処置など確認を行い、発生時には素早く対応出来る様に努めていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の防災研修や防災訓練などを行っています。消火器の場所、避難場所、備蓄品などしっかりと確認し対応出来るようにしていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴、行動、性格などを把握しその方に合った適切な声掛けをするように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との信頼関係を築き、いつでも話しかけやすい環境を作れるように努めています。その中でご利用者様からやりたい事や希望を伺いながら自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活状況を把握しそれぞれの希望に沿った一日を送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居後も変わらずおしゃれを楽しめるよう支援しています。ご家族様やご本人様から伺いお化粧品や衣類などをご家族様から持ってきていただいたり、一緒に買いに出かけたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフがおり毎食の食事はスタッフが作っているが、定期的に外食に出かけている。また畑で育てた野菜を使い、ご利用者様と一品一緒に作ったり、行事に合わせた食事を一緒に作ったりし、楽しめる工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、毎日の摂取量が分かるようにしています。目標の一日分の摂取量をしっかり確保できるように提供時間等を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方にあった方法で口腔ケアを行っています。また協力歯科医の往診も適宜行い、口腔内のチェックをして頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレ誘導や声掛けを行っています。自立に向けての支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分量に気を付けています。ヨーグルト、バナナ、繊維がある物など、薬に頼るのではなく、便秘改善に良いものは積極的に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴をして頂いていますが、希望があれば毎日入浴することもあります。拒否のある方も機嫌の良いタイミングを見て楽しく入浴して頂くように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた時間で休んで頂いています。眠れない方はホールでスタッフと安心して休めるまでお話をされることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や服薬時間を確認し、往診などで薬の変更や追加となった場合には随時スタッフ間で情報共有して経過を観察するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描かれたり、パッチワークをされたりご利用者様に毎に合った趣味、役割などを提供しています。達成感を喜びに感じて頂ける様支援しています。またハーモニカを吹いて他のご利用者様と楽しめる方もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様と買い物に出かけたり、外出に出かけたりします。近くに店舗がないため、車で移動は車窓から景色を楽しむこともできます。毎日ホーム周辺を散歩することも日課になっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご利用者様に持って頂いていませんが、ご利用者様と一緒に外食や買い物に行く際に必要に応じてお小遣いを使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望があれば、手紙や電話をすることは可能です。またホームに届いたお手紙の返信等も対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や、その時々にあった環境づくりをしています。季節の行事や、外出先で撮った写真や作品などを飾り付けています。感染症対策もしっかり行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う方同士の配置をしています。ソファーや居室内の空間を工夫して、色々な場所で安心できる環境を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、家具の配置をご家族様やご利用者様と確認し居心地よく過ごせるよう努めています。基本的にはご利用者様に危険がなければ何を持ってきていただいても良いとお伝えしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して生活して頂けるための安全確保に努めています。また物の配置には気を付けて常に検討しながらその時々にあった環境づくりをしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディア・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 3ユニット		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100043-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然に恵まれた場所でございます。自然豊かな環境の中でご利用者様は生活されているためストレスをあまり感じることなく伸び伸びと生活されています。ご利用者様は四季の景色を楽しみながら外気浴や一周800メートルほどの散歩コースを皆様のペースで散歩されています。明るいホームでカラオケやミッケルアートなどレクリエーションも豊富にございます。また最近ではスタッフと一緒にデコパージュやリース作り、きめこみパッチワークなどの作品作りも行っています。裏の畑では、ご利用者様が中心となり野菜を育てています。畑で採れた野菜で旬の料理を召し上がり皆様お元気に過ごされています。今後ご利用者様との関わりを通じて認知症ケアに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の春祭りには食の祭典かのように、富士宮炊きそば、フランクフルト、つくね、おにぎり、唐揚げ、チョコバナナ、綿菓子と美味しいものが沢山並び、家族や地域の人たちが200名余も集い、フィナーレを餅つきで飾っています。地域との関係は大きく実らせているものの、冬季には道路も凍るとあって職員の定着は悩みの種です。それだけに職員間のコミュニケーションを重視すると共に、『就寝時間などこれまでの暮らしを続けること』『発語があれば、必ず受容と同調で傾聴する』という2点を守り、利用者の安寧を支えています。また新採者がいてもサービスが標準化できるような工夫も施され、利用者の笑顔に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の申し送り時に運営理念を唱和しています。また各ユニット毎に目標を立て、理念に基づいたサービスが行えるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加させて頂いたり、ホームのイベントにも来て頂いたりしています。また近所の方の畑の野菜を頂くこともあり交流を持つことができます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方たちとの関りづくりができています。ため、散歩などでご利用様がお一人で出かけても声をかけて下さり見守ってくださっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動内容などを報告しています。ご利用様の様子を報告するお便りなどのアドバイスを頂き実践したり、要望なども聞き入れていけるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市役所の方に来ていただき、ホームの活動内容などを共有しています。また市内の感染症や災害時の情報なども伺ったりしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の身体拘束・虐待についての研修とチェックシートを用いて注意喚起を行い身体拘束防止に努めています。身体拘束廃止委員会の開催を3か月に1回行い、スタッフへの周知も行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内のスタッフ研修で行っているが活用に活かせるまでにはなっていない為、学ぶ機会を増やしていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を見ながら説明を行い、理解を得ていただける様努めています。また改定時にはご家族様へご説明し同意を頂き同意書での文書での保管も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時にお話を伺っています。また面会に来られた際にご利用者様の近況をお伝えし、要望等の確認を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や全体会議で意見交換する機会を作っています。また業務中にもスタッフとコミュニケーションを取るように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが外食や外出などの計画を立てたり、支援方法などを考えたりした意見を出来る限り汲み取り、働き甲斐のある職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議では介護の現場に必要な研修を行い、技術向上に努めています。また外部の研修に参加する機会も作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会での研修を通じて他施設との交流を持つ機会を持ち、様々な体験、経験などの学びを持つことで、職場に活かせるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様との信頼関係を大切に支援を行っています。ご利用者様の不安な事、要望などはスタッフ間で共有し支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム長やケアマネージャーが十分に話し合い、信頼関係を築く事が出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の場でのご利用者様のコミュニケーションや行動等で必要な支援を見極め、会議の際、スタッフ間で情報を共有し介護計画を立てる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の発言や要望を逃さず積極的に行って頂いています。またご利用者様から教えて頂く事も多く、信頼関係を築きながら支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご利用者様の様子をお手紙でお知らせしたり、日々のチェック表をご家族様にお送りする事で、ホームの情報を適宜お伝えしながら、不安を解消して頂けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が面会に来られ、入居されても交流が狭まらないように努めています。入居前に利用していた美容院に通う方もいらっしゃいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の状況を見極め、スタッフが間に入りながらレクリエーションやお話をする環境を提供しています。お一人で過ごされる時間も大切にしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長やケアマネージャーが窓口となり、退居後も必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の支援の中でご利用者様の要望や想いを把握し生活の支援に活かせる様努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子をアセスメントなどで把握しています。また、ご家族様にご本人様の家族構成や生活歴などの記載を協力頂き、ご本人様の生活の支援に努めています。また、入居後も会話の中からも暮らしの把握ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子をしっかりと把握し、その時に必要な支援が出来るようにスタッフ間で情報共有を行っています。ご利用者様が安心して生活していただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の様子をよく観察しより良い生活を送って頂ける様、会議等で様々なアイディアを出し合います。またご家族様の意見も参考にさせていただき、その人だけの介護計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、サービス記録、送りノートなどを活用し、気づきに対して直ぐに支援できるようチーム力の向上に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して適切に対応出来るようにアイディアを出し合い、サービス提供に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得ながら、地域の行事に参加させて頂いています。また台風や地震などの災害時にも地域の方から声を掛けて頂き、地域の方に見守られながら安心して過ごして頂ける環境を提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続されている方もおられます。健康チェック表のコピーを御家族様にお預けし受診をして頂きますが、必要時には職員が同行させて頂いています。また月2回協力医が職場に往診に来られ適切な医療が行なえるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りに参加し様子の変化に対応しています。必要時には医療機関と連絡を取り早期に適切な受診が受けられるようにしています。また各ユニット会議にも参加し、医療的な立場からの助言等もいただき支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や医療機関と情報を共有しながら入院を長期化させないように努めています。また2から3日おきにご利用者様の様子を見にいき、職員と共有し退院時に適切な支援が行える様準備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での看取りも増えてきています。ご利用者様の変化に合わせてご家族様、医療機関、スタッフと密に話し合い、今後の方針を決め支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で研修を行っています。緊急時の連絡体制や、AEDなどの使用の仕方、応急処置など確認を行い、発生時には素早く対応出来る様に努めていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の防災研修や防災訓練などを行っています。消火器の場所、避難場所、備蓄品などしっかりと確認し対応出来るようにしていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴、行動、性格などを把握しその方に合った適切な声掛けをするように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との信頼関係を築き、いつでも話しかけやすい環境を作れるように努めています。その中でご利用者様からやりたい事や希望を伺いながら自己決定できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活状況を把握しそれぞれの希望に沿った一日を送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居後も変わらずおしゃれを楽しめるよう支援しています。ご家族様やご本人様から伺いお化粧品や衣類などをご家族様から持ってきていただいたり、一緒に買いに出かけたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフがおり毎食の食事はスタッフが作っているが、定期的に外食に出かけている。また畑で育てた野菜を使い、ご利用者様と一品一緒に作ったり、行事に合わせた食事を一緒に作ったりし、楽しめる工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、毎日の摂取量が分かるようにしています。目標の一日分の摂取量をしっかり確保できるように提供時間等を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方にあった方法で口腔ケアを行っています。また協力歯科医の往診も適宜行い、口腔内のチェックをして頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレ誘導や声掛けを行っています。自立に向けての支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分量に気を付けています。ヨーグルト、バナナ、繊維がある物など、薬に頼るのではなく、便秘改善に良いものは積極的に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴をして頂いていますが、希望があれば毎日入浴することもあります。拒否のある方も機嫌の良いタイミングを見て楽しく入浴して頂くように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた時間で休んで頂いています。眠れない方はホールでスタッフと安心して休めるまでお話をされることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や服薬時間を確認し、往診などで薬の変更や追加となった場合には随時スタッフ間で情報共有して経過を観察するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描かれたり、パッチワークをされたりご利用者様に毎に合った趣味、役割などを提供しています。達成感を喜びに感じて頂ける様支援しています。またハーモニカを吹いて他のご利用者様と楽しめる方もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様と買い物に出かけたり、外出に出かけたりします。近くに店舗がないため、車での移動は車窓から景色を楽しむこともできます。毎日ホーム周辺を散歩することも日課になっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご利用者様に持って頂いていませんが、ご利用者様と一緒に外食や買い物に行く際に必要に応じてお小遣いを使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの希望があれば、手紙や電話をすることは可能です。またホームに届いたお手紙の返信等も対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や、その時々にあった環境づくりをしています。季節の行事や、外出先で撮った写真や作品などを飾り付けています。感染症対策もしっかり行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは気の合う方同士の配置をしています。ソファーや居室内の空間を工夫して、色々な場所で安心できる環境を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、家具の配置をご家族様やご利用者様と確認し居心地よく過ごせるよう努めています。基本的にはご利用者様に危険がなければ何を持ってきていただいても良いとお伝えしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して生活して頂けるための安全確保に努めています。また物の配置には気を付けて常に検討しながらその時々にあった環境づくりをしています。		